

理事長からのあいさつ

未来を創ろう、あなたも一万人の “新渡戸の子” として



一般社団法人 新渡戸稲造と札幌遠友夜学校を考える会
理事長 松井博和

2013年3月に本法人がスタートしました。この度、秋山孝二初代代表より理事長職を引き継ぐこととなり、身の引き締まる思いをしております。秋山前代表の多大なご尽力に深く敬意を表したく思います。7年の長きにわたって秋山前代表と運営委員の皆さまが続けてこられた記念フォーラムや連続講座の一層の発展と「札幌遠友夜学校」跡地（南4条東4丁目）の記念館建設実現に向けて微力ながら努力いたしたく思っております。

私は北大入学以来、人生の大半をエルムに囲まれた緑豊かなキャンパスで過ごしてきました。200万都市の札幌市のど真ん中で、何とぜいたくなキャンパスかと誇りに思っております。北大の前身、札幌農学校が創立された頃の札幌は、人口が2,000人ばかりの田舎町だったと聞いています。ここに日本の最優秀の一期生が集まり、開拓使長官・黒田清隆と札幌農学校教頭・クラーク博士の指導のもと、人格を作る教育がはじまりました。

二期生の新渡戸稲造、内村鑑三、宮部金吾の3人は、後世の今でも誉め讃えられる三傑です。特に新渡戸博士は、札幌農学校、京大、東大、東京女子大等で大きな教育足跡を残し、国際連盟事務次長など国際的にも活躍し、昭和後期に5千円札の肖像にも使われました。

この新渡戸稲造が最も誇りに思っていたのが遠友夜学校（1894～1944）の設立です。貧しい子女を夜の6時から無償で教育したのです。札幌農学校や北大の先生たち、学生たちが教育に当たり50年も続きました。70数年を経たこの跡地は、現在、札幌市の「新渡戸稲造記念公園」として蘇り、掲示板と花壇が設置されております。

札幌農学校精神を受け継ぐ人たちは”札幌の子“といわれますが、今、”新渡戸の子“が、21世紀の遠友夜学校の開設を目指し、その記念館設立に立ち上がりました。夢と希望で地域、国、世界の未来を創る場を求めているのです。多くの北海道内著名人の応援メッセージが届いています。幾つかを紹介します。

- ・ノーベル賞を受賞された鈴木章先生の「新渡戸精神を世界中の若人と共に」
- ・北大総長代理・笠原正典先生の「新渡戸博士の精神が継承され、新たな実を結ぶことを願っています」
- ・新渡戸とゆかりの深い台湾の周学佑先生の「台湾と北海道の架け橋がまた1つ増えますね」
- ・町村農場代表の町村均様からは「農学校同期の曾祖父町村金弥は、新渡戸氏と終生の縁を築きました。感謝」など。

札幌の、北海道の、子供から高齢者までの社会人教育、新しい生涯学習の場になることが多方面から期待されています。

新渡戸を表すキーワード、国際性、多様性、寛容性は、グローバル化の不透明で不安な今、まさに全人類に求められている言葉です。また、新渡戸博士のような真の教養人、行動する総合的知識人をこの札幌、北海道から作っていく必要があるのです。

市民の皆さん、道民の皆さん、そして新渡戸の後輩の皆さん、未来ある子供や若者たちに、私たち大人には明るい未来を提示する責務があります。私は皆さんと共に、この小さな21世紀の寺子屋から、北海道の次なる発展、日本や世界の未来を担う人材、素晴らしい研究者、起業者、企業家、真の政治家を育てられると信じています。

10,000人の新渡戸の子が、その気になれば不可能なことはありません。「主義主張にこだわらず、どんな人とも交流し、理解しあい、お互いの立場や人格を尊重する、寛容な生き方」の新渡戸を見習い、他者を排除することなく、多くの皆さんと協働の精神によるみんなの共有の場をつくりましょう。

あなたのしたい事、あなたができる事の場を保証し、あなたの人生を豊かにし、世のため人のためにあなたが主体になって何かができるそのような場を作るための募金活動にご協力下さいますようお願い申し上げます。

なお募金のみならず「運営委員」として一緒に頑張っておられる方の方の入会を歓迎しています。ご遠慮なくお申し出ください。10,000人の新渡戸の子として。

【略歴】

1949（昭和24）年上富良野町生まれ。1972年北大農学部卒。農学博士。北大助手、助教授を経て1999年教授。北大評議員、知的財産本部副本部長、生涯学習計画研究部長、農学研究院長、農学院長、農学部長、日本応用糖質科学会会長等を歴任。2013年退職、北大名誉教授。糖質関連酵素やオリゴ糖の研究、北海道遺伝子組換え条例の策定で、日本農芸化学会奨励賞、日本応用糖質科学会賞、文部科学大臣表彰科学賞、日本農学賞・読売農学賞を受賞。現在、科学技術コミュニケーター、ふらのふるさと大使、企業等特別顧問、（一社）札幌農学同窓会理事長、（一財）北海道農業企業化研究所理事、全道産学官ネットワーク協議会会長など。北大農学院講義「リーダーシップ学総論」を担当。